

目次

第 8 章 環境影響評価準備書からの主な変更内容	8-1
--------------------------------	-----

表番

表 8 . 1 . 1 環境影響評価準備書からの主な変更内容	8-2
--------------------------------------	-----

第 8 章 環境影響評価準備書からの主な変更内容

環境影響評価準備書からの主な変更内容を表 8.1.1 に示します。

表 8.1.1 (1) 環境影響評価準備書からの主な変更内容

項目	評価書頁	準備書での記述	評価書での記述
第 1 章	P.1-10	<p>2) 当該事業における一般的な環境保全の方針</p> <p>12. 施工管理の一環として、工事による河川水質への影響の有無を確認するため、小嵐川及び工事排水が想定される地点等適切な調査地点を設定し、着工前から環境基準に準拠した項目・手法による水質調査を行い、対応します。</p>	<p>2) 当該事業における一般的な環境保全の方針</p> <p>12. 施工管理の一環として、工事による河川水質への影響の有無を確認するため、小嵐川及び工事排水が想定される地点等適切な調査地点を設定し、着工前から環境基準に準拠した項目・手法による水質調査を行い、必要に応じて保全対策を検討し適切に実施します。</p>
	P.1-10 P.6-1	-	<p>15. トンネル掘削等における、地質由来の有害金属による河川、地下水への影響については、事前に先進ボーリング等により採取した試料の溶出量試験等を行うとともに、工事排水の水質監視を行い、必要に応じて保全対策を検討し適切に実施します。</p>
		-	<p>16. 建設発生土の利用にあたっては、事前に有害金属等の含有量試験等を行い、有害性が確認された場合は、保全対策を検討し適切に実施します。</p>
	P.1-10	-	<p>19. 小動物の生息環境を保護する観点から、設計段階において、小動物の移動経路の確保等について検討を行い、必要に応じて保全対策を適切に実施します。</p>

表 8.1.1(2) 環境影響評価準備書からの主な変更内容

項目	評価書頁	準備書での記述	評価書での記述
第 2 章 第 2 節	P.2-91 ~ 112 P.2-117 P.2-119 ~ 128 P.2-131 ~ 135 P.2-139 ~ 141	4 . 動植物の状況 表 2 . 2 . 4 表 2 . 2 . 6 表 2 . 2 . 7 表 2 . 2 . 8 表 2 . 2 . 9 表 2 . 2 . 1 0 表 2 . 2 . 1 1 表 2 . 2 . 1 2 表 2 . 2 . 1 4 表 2 . 2 . 1 5	4 . 動植物の状況 環境省レッドリスト改訂に基づく更新 表 2 . 2 . 4 表 2 . 2 . 6 表 2 . 2 . 7 表 2 . 2 . 8 表 2 . 2 . 9 表 2 . 2 . 1 0 表 2 . 2 . 1 1 表 2 . 2 . 1 2 表 2 . 2 . 1 4 表 2 . 2 . 1 5
第 3 章	P.3-1	第 1 節 専門家等による技術的助言	第 1 節 専門家等による技術的助言 専門家等の氏名を追加
	P.3-3	表 3 . 1 . 1 -	表 3 . 1 . 1 専門家等の指導・助言内容を追加
第 4 章 第 1 節	P.4-1-40	-	図 4 . 1 . 1 8 大気質濃度の距離減衰図を追加
第 4 章 第 2 節	P.4-2-26	-	図 4 . 2 . 7 騒音の距離減衰図を追加
第 4 章 第 6 節	P.4-6-23 ~ 28 P.4-6-53 ~ 62	(7) 予測結果 2) 予測対象種の選定結果 表 4 . 6 . 8 - 3) 予測結果 -	(7) 予測結果 2) 予測対象種の選定結果 表 4 . 6 . 8 文献で確認されたが現地調査で確認されなかった注目すべき種を予測対象種に追加 3) 予測結果 文献で確認されたが現地調査で確認されなかった注目すべき種を追加
	P.4-6-66 ~ 69 P.6-1	3 . 保全対策 表 4 . 6 . 9 表 4 . 6 . 1 0 表 4 . 6 . 1 1 表 4 . 6 . 1 2 表 6 . 1 . 1 (1)	3 . 保全対策 ヤマユリの保全対策及び事後調査を追加 表 4 . 6 . 1 0 表 4 . 6 . 1 1 表 4 . 6 . 1 2 表 4 . 6 . 1 3 表 6 . 1 . 1 (1)

表 8.1.1 (3) 環境影響評価準備書からの主な変更内容

項目	評価書頁	準備書での記述	評価書での記述
第 4 章 第 7 節	P.4-7-30 ~ 31	-	底生動物 底生動物確認種リストを追加 表 5.7.1 4
	P.4-7-37 ~ 44	(7) 予測結果 2) 予測対象種の選定結果 - 表 4.7.2 0 表 4.7.2 1 表 4.7.2 2 表 4.7.2 3 表 4.7.2 4 表 4.7.2 5 表 4.7.2 6	2) 予測対象種の選定結果 文献で確認されたが現地調査で確認されなかった注目すべき種を予測対象種に追加 表 4.7.2 0 表 4.7.2 1 表 4.7.2 2 表 4.7.2 3 表 4.7.2 4 表 4.7.2 5 表 4.7.2 6
	P.4-7-102 ~ 112	(3) 予測結果 -	(3) 予測結果 文献で確認されたが現地調査で確認されなかった注目すべき種を追加。
第 4 章 第 8 節	P.4-8-19 P.4-8-77 P.4-8-79 P.4-8-80 P.4-8-81 P.4-8-83 P.4-8-59	表 4.8.4 表 4.8.2 5 表 4.8.2 6 表 4.8.2 7 表 4.8.2 8 表 4.8.2 9 4 . 予測結果	アカシサンショウウオを指標種に追加 表 4.8.4 表 4.8.2 5 表 4.8.2 6 表 4.8.2 7 表 4.8.2 8 表 4.8.2 9 4 . 予測結果
第 4 章 第 11 節	P.4-11-3	3 . 環境保全対策検討結果の整理 表 4.1 1.4 保全対策 -	3 . 環境保全対策検討結果の整理 表 4.1 1.4 保全対策 なお、建設発生土を仮置する場合には、自然環境の保全に配慮して仮置場所の選定を行います。
第 6 章	P.6-2	表 6.1.1 (2) 生態系：動物相・植物相	表 6.1.1 (2) (概ね 3 年間 (2 営業期)) 生態系：動物相・植物相 施工ヤードの設置にあたっては、生態系への影響に配慮して計画を具体化し、及ぼす影響を把握するとともに、保全措置を検討し適切に実施します。さらに事後調査を行い生態系の変化を把握します。